



自社のデータセンターや、サービス プロバイダーのデータセンター、Windows Azure の一元管理を行う Microsoft System Center 2012 R2 を使用することで、[マイクロソフト クラウド OS](#) のメリットを実感できます。

IT サービス管理機能は、以下を可能にする柔軟なサービスを提供して、Cloud OS をサポートします。

- プライベート クラウド容量に対するセルフサービス要求
- 業界標準のサービス管理およびプロセスワークフローの自動化
- ビジネスおよび運用に関する洞察の発見

現在、多くの組織がクラウド コンピューティングに切り替えつつあり、それにつれ、コンプライアンスを保ちつつ、物理リソース、仮想リソース、クラウド リソースの全体で、信頼性が高く予測可能な IT サービスを提供することが、ますます重要となってきました。System Center 2012 R2 は、組織全体の人、プロセス、および知識を効果的に統合するのに役立つ、柔軟な IT サービス管理を提供します。

柔軟で、優れたコスト効率

クラウド コンピューティングは、企業が現在ビジネスを行っている方法を根底から変えつつあります。エンタープライズ全体の標準化およびコンプライアンスを確実にすることを考慮した場合、特に、厳しい規制の文脈においては、IT サービスは、柔軟性と制御とのバランスを適切にとりながら、一元的に定義および利用される必要があります。System Center 2012 R2 Service Manager は、カスタム サービス要求内容、プロセスと知識の統合、チャージバックなど、組織が必要とするサービス管理プロセスを柔軟に提供するのに役立ちます。

プライベート クラウド容量に対するセルフサービス要求

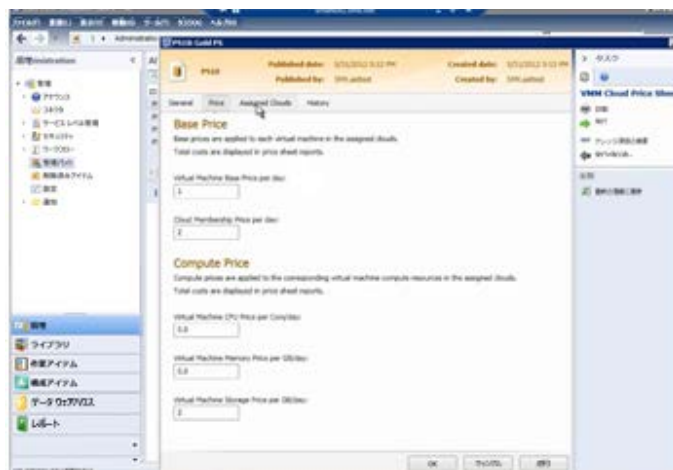
ますます高度になるビジネス上の要求を満たすため、多くの IT 部門は現在、サービス内容の標準化および発行に取り組んでいます。System Center 2012 R2 Service Manager は、IT サービスの要求に対するサービス カタログの発行を通じて IT サービス提供を標準化することにより、このニーズに対処します。このカタログには、柔軟なサービス要求テンプレートおよびワークフローが含まれており、自社のビジネス プロセスに合ったサービス内容の作成および発行を簡単に行うのに役立ちます。エンド ユーザーおよびアプリケーション所有者は、Service Manager に統合されている Cloud Service Process Pack (CSPP) を使用してサービスを請求します。CSPP により、内部の基幹業務 (LOB) アプリケーション チームに対する、プールされたインフラストラクチャ リソースのプロビジョニングおよび割り当てが可能になります。これは、Service Manager ポータルから提出された要件に基づいて行われます。

業界標準のサービス管理 および プロセスワークフロー

ビジネスにおいて重要なことの 1 つは、予測可能なサービスを提供することです。しかし、予測可能であるためには、適切な管理ツールが用意されていなければなりません。組織的な管理を容易にするため、Service Manager は、インシデント、問題、変更、およびリリースの管理用に、業界標準のサービス管理および自動化されたワークフローを使用します。一元化された構成管理データベース (CMDB) は、すべての IT サービス要求および変更を追跡するための、単一のリポジトリを提供します。このデータベースは、インフラストラクチャおよびアプリケーション全体の関係をキャプチャし、変更管理を容易にして、コンプライアンスの維持に役立ちます。また、CMDB は、バーチャル マシン テンプレート、アプリケーション サービス テンプレート、バーチャル マシン、ホスト、アプリケーション サービスなど、複数のプライベート クラウド構成アイテムを監視することもできます。

ビジネスおよび 運用に関する洞察

IT チームは、インフラストラクチャのリソース消費、および定義済みのサービス レベル アグリーメント (SLA) に対するパフォーマンスを常に追跡する必要があります。Service Manager は、System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager (VMM) および System Center 2012 R2 Operations Manager との強力な統合を利用して、バーチャル マシンとクラウドのインボックス測定および価格シートを提供します。Orchestrator コネクタは、Runbook の実行などのプロセス自動化機能によって、サービス要求の実行をサポートします。VMM コネクタは、バーチャル マシン テンプレートやサービス テンプレートなどのライブラリ データを、CMDB にインポートします。これにより、エンド ユーザーは、セルフサービス モードで内容を要求できます。Service Manager 内のデータ ウェアハウスは、運用における SLA の傾向を分析するための、豊富なセルフサービス レポート (Microsoft Office、Active Directory、SAP との統合を含む) を提供します。さらに、Cloud Cruiser のコスト分析ソリューションとの統合により、正確なチャージバック/ショーバック モデルが提供されます。このモデルは、エンタープライズおよびサービス プロバイダーが、包括的なチャージバック ソリューションを実装するのに役立ちます。



データセンター全体のリソース消費およびパフォーマンスを追跡するのに役立つよう、System Center は、バーチャル マシンとクラウドのインボックス測定および価格シートを提供します。

次のステップ

- System Center 2012 R2 に関するその他のリソース:
<http://www.microsoft.com/ja-jp/server-cloud/products/system-center-2012-r2/>
- System Center 2012 R2 (TechNet)
<http://www.microsoft.com/technet>
- System Center 2012 R2 のダウンロードおよび評価:
http://technet.microsoft.com/ja-jp/evalcenter/dn205292?WT.mc_id=Social_R2_R2_General
- System Center Marketplace (英語):
<http://systemcenter.pinpoint.microsoft.com>
- ブログ (英語):
<http://blogs.technet.com/server-cloud>